

1	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="169 159 323 206">課題番号</th> <th data-bbox="323 159 898 206">研究課題名</th> <th data-bbox="898 159 1313 206">研究代表者</th> <th data-bbox="1313 159 1437 206">評価結果</th> </tr> <tr> <td data-bbox="169 206 323 309">13854002</td> <td data-bbox="323 206 898 309">低温センサーと低温適応の分子機構の研究</td> <td data-bbox="898 206 1313 309">村田 紀夫 (基礎生物学研究所・環境適応研究部門・教授)</td> <td data-bbox="1313 206 1437 309">A</td> </tr> </table>	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果	13854002	低温センサーと低温適応の分子機構の研究	村田 紀夫 (基礎生物学研究所・環境適応研究部門・教授)	A
課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果						
13854002	低温センサーと低温適応の分子機構の研究	村田 紀夫 (基礎生物学研究所・環境適応研究部門・教授)	A						
<p>(意見等)</p> <p>ラン藻の低温応答のセンサー、その情報伝達機能については当初の研究目的を達成した。もう一つの目的であった低温に対するタンパク質の反応部位の特定 (センサーが感知するメカニズム) に関するタンパク化学的な解明ができなかった点については、当初計画に照らしてやや遺憾な点である。ラン藻という比較的単純なモデル系での成果であるが、高等植物などの低温感受性という普遍的な問題にアプローチする上でも、有効な成果でありさらに低温感受性のタンパク化学的な解明の進展を期待したい。</p> <p>これまでの成果だけでも多くの高い学術的価値をもつ論文を發表しており、本研究の成果としては十分な成果を上げていると判断できる。</p>									
2	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="169 1070 323 1122">課題番号</th> <th data-bbox="323 1070 898 1122">研究課題名</th> <th data-bbox="898 1070 1313 1122">研究代表者</th> <th data-bbox="1313 1070 1437 1122">評価結果</th> </tr> <tr> <td data-bbox="169 1122 323 1225">13854023</td> <td data-bbox="323 1122 898 1225">新規細胞内脂質結合蛋白質ファミリーの生理機能と病態</td> <td data-bbox="898 1122 1313 1225">新井 洋由 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授)</td> <td data-bbox="1313 1122 1437 1225">A</td> </tr> </table> <p>(意見等)</p> <p>本研究は、当初計画された内容の一部 (蛋白質の X 線解析) が他の研究グループに先行されたが、当初の研究目的は概ね達成され、期待どおりに進展したと評価できる。</p> <p>ビタミン E 特異的輸送蛋白質 (α-TPP)、スクアレン輸送蛋白質 (SPF) 及びオキシステロール結合蛋白質 (OSBP) の生理機能を解析し、病態との関連を明らかにし、関連学問分野への貢献度は極めて高い。特に、α-TPP の研究においては「α-TPP パラドックス」を発見し、ビタミン E 欠乏症の概念を塗り替えた。また、SPF 阻害薬はコレステロール低下薬になる可能性を示し、OSBP の研究においてはリガンドを探索する系を確立し今後のさらなる研究の発展の基を構築した。</p> <p>このように本研究は期待どおりの研究成果が上げられたと評価できる。</p>	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果	13854023	新規細胞内脂質結合蛋白質ファミリーの生理機能と病態	新井 洋由 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授)	A
課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果						
13854023	新規細胞内脂質結合蛋白質ファミリーの生理機能と病態	新井 洋由 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授)	A						